

こっちの水は甘いぞ  
ほう ほう 蛭こい  
蛭こんにゃぶんぶんこい

お月さん何ぼ 十三、七つ  
まだ年や若いよ  
油買うてあげようか  
何にもいらん  
銭と金がほしいよ

新保広大寺

新保広大寺しんぼこうだいじにや腰びくに魚籠いさごさげて  
前の小川に泥鰌ひなぎくすくいに

三 わらべ歌

この前を猿が三匹通る  
どの猿も物知らず

一番真中の小猿めが  
よう物知って

日本国中飛び歩いて  
いわしを三匹拾うて

煮て食うても塩からし

あんまり塩がかるうて

前の田んぼに飛び込んで

水を一杯のんだれば

あんまり腹が太って

鐘撞堂へ上って

尻をぶりぶりひつたれば

鐘撞堂がゆるいで

大きい坊主は泣きやある

小こまい坊主は笑やある

泣きやんな笑やんな

明日あしたの市で

土産を買うて参らんしょ

土産の中に織管が一つ

織管の中にぶんぶん虫が一つ

ぶんぶん虫の言うことにや

紅とかねをつけて

によんによへ参る

によんによの道で

尾のある鳥と

尾のない鳥が

あっちへちろりんこっちへちろり

ちろめくところところのばばが

織機から下りて

箒をもっておさえた

その箒どうした

火へくべてしもうた

その火はどうした

灰になつてしもうた

その灰はどうした

麦へかけてしもうた

その麦はどうした

がなが食べてしもうた

そのがんはどうした

うね越し谷越し

がんから松へとまった

鳥からす

われの手のはなんな

煎り米ちや米

わしにちいとくれや

やっちゃみてる

みてりや作れ

作りや寒いよ

寒けりやあたれ

あたりや熱いよ

熱けりやすだれ

すだりやすだにがかぶる

かぶりや殺せ

殺しやむごい

むごけりや抱いて寝

抱いて寝りや小便する

小便すりや

だぶへ投げてしまえ

#### 四 踊り歌——熊野町榊山神社神楽踊

##### 解説

一、昭和二十八年七月に榊山神社社務所が活字にして刊行した歌詞集を再録する。表紙裏に、「榊山神社神楽踊のいはれ」とし、「抑榊山神社神楽踊はその源流を何時頃におくものであらうか。典拠としては年中事物録を見るに『弘治二丙辰年八月一日祈願ニ付踊申候云々』とあり、弘治二年は、第百四代後奈良天皇の御宇、応仁の乱を過ること遠からざる足利時代で今から約四百年以前である。ノ当時農民の宝とも名づくる牛の死する事著しく、なを又田畑に害虫はびこりたるが故に之が撲滅を期する為祈願せしに、成就せるに依り『祈願ほどき』として奉納するに至った。ノ之が恒例となり現在特殊神事として六区踊終らざれば祭典終了せざる、天下に比聞なき神事である」(原文ノママ)という序文をつけた十六ページだての小冊子である。はじめから「牛若踊」「姫子踊」を「萩原宮踊」(一)(二)とし、「宮島踊」「長者踊」を「城之堀宮踊」(一)(二)、「子息踊」「購入踊」を「呉地宮踊」(一)(二)、「御伊勢踊」「当世踊」を「中溝宮踊」(一)(二)、「世歳踊」「御若衆」を「出来宮踊」(一)(二)、「白川長者」「向ひ海道踊」を「初神宮踊」(一)(二)としている。

一、本文に当て字が多く、仮名づかいも変則的なので、それらをできるだけ歴史的仮名づかいに改め、読みやすくしようと心がけたが、意味不明の部分は原文のままとした。また原文の振り仮名は、誤読のおそれのない限り省略することにした。

一、実際の唱歌とは若干のずれがあるが、その違いには及びえなかった。